も発見されたが，これも果実の時期であった。バンレイシ科の植物は雄しべの形が重要な性質なので，花の資料を得ることが切望されていた。稀少な植物で花の時期も限られていてなかなか花を採集することは難しかった。沖縄の中島邦雄氏は琉球の波照間島でこの植物の花を採集し，標本の1部を東大に寄贈された。驚いたことにこの植物の花の外観は，フィリピンが原産地と考えられ香料植物として熱帯に広く栽培されるイランイランノキ *Cananga odorata* (Lam.) Hook. f. et Thoms. にそっくりであった (Fig. 1)。葉もイランイランノキによく似ているので，中島氏はこれをイランイランノキと同定した。標本ではクロボウモドキの花弁がやや厚いほかは外観上両者の区別はほとんど無いので，中島氏の説に賛成して，平凡社の樹木図鑑 (1989) ではイランイランノキとして解説した。しかし，大阪府大の植田邦彦氏の示唆もあってこの花を解剖したところ，雄しべの形 (Fig. 2-a, b) は *Cananga odorata* (Fig. 2-c) とは異なることがわかった。この形は *Polyalthia* に一致する。したがってこの植物は外観はよく似ていてもイランイランノキではなく，クロボウモドキ *Polyalthia liukiuensis* Hatusima を使うのが正しい。

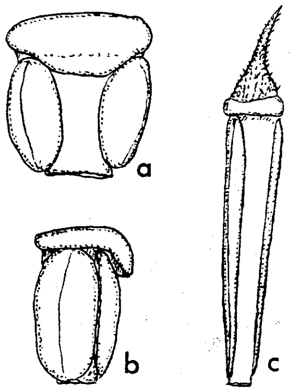


Fig. 2. Anthers. a and b: *Polyalthia liukiuensis*, a, dorsal view. b, lateral view. c: *Cananga odorata*, dorsal view. All ×20.

Polyalthia liukiuensis Hatusima in Journ. Geobot. Hokuriku **26**: 86, f. 1 (1979); C. E. Chang in Journ. Geobot. Hokuriku **29**: 5, f. 2 (1981).

Cananga odorata auct. non Hook. f. et Thoms.: Yamazaki in Satake et al. ed., Wild Flow. Japan, Woody Pl. **1**: 109 (1989).

Distr. Ryukyu: Is. Iriomote and Is. Hateruma, and Taiwan: Is. Lanyu.

（東京大学 理学部附属植物園）

□長田武正: **日本イネ科植物図譜** 759pp. 1989. 平凡社，東京. ¥17,510. 日本に自生する約 330 種（外来品を含み，タケ類は除く）がそれぞれ1頁の図に示され，対面頁に和文，英文の解説がある。図の出来ばえはこれまでの著者の実績どおり，精緻なものである。イネ科の同定は面倒でなかなかとりつけないものだが，それを考慮して38頁にわたる著者独自の工夫になる図解検索表がつけられており，こういう形式は今後他の植物群についても見習われるだろう。7つの新学名（組合せ）が作られている。（金井弘夫）